

学校・家庭・地域で「育てる生徒指導」

小千谷・和泉小学校

問題行動等に迫られる生徒指導でなく、自他のよさを認め合える「育てる生徒指導」を何よりも大切にしていきたい。笑顔と落ち着きある学校生活を支援し、児童に確かな社会性を育むことを願い教育活動を展開しているが、児童の生活は学校・家庭・地域社会と多岐にわたる。

当校では、学校職員が指導・対応に当たるだけでなく、家庭・地域と連携を進め、「ともに育てる」アプローチを長年実践している。そのパートナーシップ推進を基にした取組を紹介する。

1 一体となって取り組む挨拶運動

「校長先生、子どもたちをたくさん褒めてください。」2学期の挨拶運動アンケートに書かれていたボランティアの方の言葉に心が温まった。当校では、挨拶運動に保護者・地域の挨拶ボランティアを募り、参加してもらう。そこでの感想や地域での様子を受けて、前述のコメントをいただくことがあった。職員は一緒に活動する中でボランティアの声や情報を集め、指導に活かす。学校内で把握できなかった姿を教えてもらう。その流れをつくることで、「ともに育てる」という意識で関わる大人が増え、下校時の児童に自然と声を掛けてくださっている。児童の挨拶も学校内外で気持ちよいものになっている。

2 学校便りでの発信

学校の取組や現状を発信することは、共通した関わりの素地づくりとして重要である。当校では、毎月の学校便りに生活指導の内容を必ず載せている。『挨拶運動、なかよし集会（いじめ見逃しゼロ集会）、メディアとのつきあい方（家庭での約束、フィルタリング）、ハートカード（温かいメッセージ）等』がこれまでの掲載内容である。時には、保護者・地域の声も載せフィードバックをすることで、取組への関心を高め、「共有・実践」の歩みを進めている。

3 地域・家庭との協働体制づくり

教育に対して熱意ある地域である。中学校区教育振興会議，サポート委員会，PTA家庭教育委員会等で、定期的に児童の様子を意見交換し，PTA会員が主体的に会を運営する機会もある。

児童の健全育成に向けて，活動を通しそれぞれが役割を担い，協働する雰囲気が積み上げられてきている。時には率直な意見から，計画の見直しを図っている。

また，中学校区では「家庭・地域・学校でつくる小中連携プラン」のポスターを作成し，共通の取組を地域・保護者に知らせ，相互に働き掛けている。